

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
2024 年度 第 3 回 FD・SD 委員会
議事次第

日 時:2024 年 11 月 21 日(木)10:00~11:30

開催場所:オンライン(Zoom)

委 員 校:甲南大学(委員長校)、神戸市看護大学(副委員長校)

芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、神戸大学
神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸松蔭女子学院大学、
神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、神戸薬科大学、
頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、宝塚医療大学、
兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫教育大学、兵庫県立大学、流通科学大学 計 25 校

I. 協議事項

1. 2024 年度 FD・SD 委員会事業自己評価について (資料 1)
2. その他

II. 報告事項

1. 2024 年度事業の進捗状況について (資料 2)
2. その他

III. 懇談事項

1. FD・SD 共通化施策案の意向調査について (資料 3)
2. その他

IV. 連絡・調整事項

1. 2024 年度の FD・SD 委員会開催予定と主な議題について
第 4 回委員会 2 月:2025 年度 事業計画・予算(案)
第 5 回委員会 3 月:2024 年度 事業報告・決算(案)
2. その他

以上

<資料一覧>

資料 1-1:事業委員会における 2024 年度事業の実施内容(結果)と自己評価の作成について(依頼)

資料 1-2:2024年度 FD・SD 委員会事業 自己評価(案)

資料 2-1:加盟校が実施する FD・SD セミナーの公開 2024

資料 2-2:「IR の基礎をダイジェストで学ぶ！」実施報告書

資料 2-3:「大学における生成 AI 活用について考える」実施報告書

資料 2-4:「内部質保証システムの実質化を考える」セミナー企画書

資料 3-1:2024 大学コンソーシアムひょうご神戸 FD・SD 共通化施策案について

資料 3-2:2024 大学コンソーシアムひょうご神戸 FD・SD 共通化施策案の意向調査結果

別添:「加盟校が実施する FD・SD セミナーの公開」情報共有の仕組み

2024 年 11 月 吉日

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

事業委員会 委員長 各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

理事長 中村 恵

事業委員会における 2024 年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成について（依頼）

拝啓 晩秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当コンソーシアムでは、各事業委員会にて実施いただきました事業について「自己評価」を作成していただき、その内容をもとに企画運営委員会及び理事会にて事業の継続・改善等を検討することとしております。

つきましては、当コンソーシアムの活動の更なる充実のため、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

敬具

記

1. 各事業委員会への依頼内容と提出期限について

依頼内容：2024 年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成、提出

2024 年度事業計画（添付 1）に基づき、プログラムごとに実施内容（結果）と自己評価を作成してください。12 月以降に実施予定のプログラムについては、進捗状況を具体的に記入ください。

提出期限：12 月 5 日（木）正午

2. 今後のスケジュール

- （1）ひょうご産官学連携協議会の構成員である兵庫県及び経済団体（兵庫県商工会連合会、兵庫県中小企業家同友会、兵庫県中小企業団体中央会）の意見聴取：12 月
- （2）第 9 回企画運営委員会による事業改善提案の検討：12 月
- （3）第 5 回理事会による事業改善提案の審議：1 月
- （4）各事業委員会へのフィードバックと 2025 年度事業計画・予算提出依頼：1 月
- （5）第 11 回企画運営委員会にて 2025 年度事業計画・予算検討：2 月
- （6）第 6 回理事会による 2025 年度事業計画・予算審議：3 月
- （7）ひょうご産官学連携協議会にて、2025 年度事業計画・予算審議：3 月

（添付書類）

- ・添付 1 2024 年度 事業計画（事業委員会別）

以上

【問い合わせ先】大学コンソーシアムひょうご神戸事務局（担当：山本・谷本）

電話：078-271-0233 メール：kanri@consortium-hyogo.jp

委員長校	甲南大学
副委員長校	神戸市看護大学
委員校 (全:25校)	芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、神戸薬科大学、頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、宝塚医療大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫教育大学、兵庫県立大学、流通科学大学

中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標	
課題	課題⑥大学教職員の研修機会の提供と交流の促進
取組1	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開
達成目標	各年セミナー5件以上
活動指標	参加者数100人以上／年
取組2	<FD・SD情報交換会、セミナー等の開催> 大学教育等に関する講演会等の開催
達成目標	各年参加者数50名以上
活動指標	開催数:3回以上／年

目的

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供」の推進に向けて、以下の取組課題について、事業推進を行う。

【取組課題⑥】大学教職員の研修機会の提供と交流の促進
教職員の資質を向上させることを目的とした研修の機会を継続的に提供する。県下の大学等高等教育機関の関係者に研修交流機会を提供することにより、相互の立場で具体的な施策に結びつく議論が行われる、関連な意見交換の場を創出する。
以上の体制の構築並びに、必要な取り組みは本委員会にて実施する。

予算額	課題⑥大学教職員の研修機会の提供と交流の促進		
	取組1	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	0円
	取組2	FD・SD情報交換会、セミナー等の開催	500,000円

期待される効果

大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校教職員の資質向上に寄与し、加盟校の担当者間の情報交換・交流や加盟校間での人材交流を促進する場が提供できる。

【2024年度 FD・SD委員会 事業計画(⑥取組1)】

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進	
達成目標	大学間で研修プログラムを共有することで、多様な教職員の学びと交流の場を提供する。	
課題を解決する 取組概要	加盟校間でのFD・SDセミナーの公開	
活動指標	参加者数100人以上/年	
計画(4月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
1. 情報収集 Webフォームにて加盟校のFD・SDセミナー(学外公開可のもの)の情報収集を行う。 2. 情報提供 加盟校のFD・SDセミナーの情報について、大学コンソーシアムひょうご神戸よりメール周知ならびにホームページ上での公開等により情報共有を行う。 3. 定期的な協力依頼 半年に1回程度、加盟校へのFD・SDセミナーの情報提供依頼を実施するなど、適宜、本取り組みへの理解と協力を求める。 【参考】2023年度の情報提供テーマ例 「Chat GPT 等生成 AI の業務での利用について」 「大学の授業と著作権について」 「大学入学者選抜の過去・現在・未来」	(活動内容) 「加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開」 10校9件のFD・SDセミナーが、大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の教職員に公開された。大学間で研修プログラムを共有することで、多様な教職員の学びと交流の場を提供した。開放校より報告のあった参加者数は計678名であった。※11月21日時点 1. 情報収集 「加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開」について、Webフォームによる情報共有の仕組みを活用して、通年を通して、各校から学外公開可のFD・SDセミナーの情報提供を受け付けた。 2. 情報提供 公開された加盟校のFD・SDセミナーの情報について、大学コンソーシアムひょうご神戸より、ホームページ上での公開ならびにメール周知等により情報提供を行った。 3. 定期的な協力依頼 加盟校へのFD・SDセミナーの情報提供依頼を実施した。第1回FD・SD委員会(2024年5月7日)、依頼メールの配信(2024年5月10日)、第3回FD・SD委員会(2024年11月21日)、依頼メールの配信(2024年11月25日) (自己評価) 加盟校によるFD・SDセミナーの公開については、FD・SD委員会ならびに、コンソ加盟校に向けて、広く周知されている。2024年度は当初計画の活動指標(参加者数100人以上)を達成し、達成目標である「多様な教職員の学びと交流の場」を提供できている。各加盟校が大学間で連携・協力しながら、教職員の資質を向上させる研修と交流の機会を提供する取組として有益であり、継続すべきであると考えている。	
達成目標に対する実績	10校9件のFD・SDセミナーを公開	
活動指標に対する実績	678人 ※11月21日時点	
自己評価基準：対到達目標 ※	4	—
自己評価基準：対継続性 ※	4	—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
0円	0円	0円		
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
(企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック)				

※	4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った	※	自己評価基準：対継続性	4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき
自己評価基準：対到達目標				

【2024年度 FD・SD委員会 事業計画(⑥取組2-1)】

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進		
達成目標	大学教育が直面している喫緊の課題に関する情報を共有することにより、高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高める。		
課題を解決する 取組概要	加盟校教職員を対象とした大学教育等に関する講演会等の開催		
活動指標	開催数1回以上/年		
計画(4月記載)		自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
1. 大学教育等に関する講演会等の開催 ・テーマ 加盟校の意向を調査したうえで決定 昨年度実施したアンケートにおいては、DXや(生成系)AIのテーマに関するニーズが多かったため、DX、AI関連を中心にテーマを検討する。 また、FD・SDの共通化の一端として、講演会等のオンデマンド化を講師が許可する範囲内にて行い、後日、加盟校教職員が”いつでも・どこでも・だれでも”参加可能な仕組みを検討する。 2. FD・SDの共通化への取り組み 昨年度は事前調査として、「共同研修」を行うことで効果が期待できそうなテーマやアイデアのヒアリングを行い、内部質保証、IRに関する回答が多く、若手職員の合同勉強会による人的ネットワークの構築を求める回答もあった。 今年度は詳細テーマ、実施方法・時期などを適宜加盟校の意向を調査しつつ、最初の取り組み方針を固める。		(活動内容) 1. 大学教育等に関する講演会等の開催 FD・SD委員校に生成AIに関するアンケート(2024年5月24日～6月4日)を実施し、内容検討の上、開催した。 【名称】大学における生成AI活用について考える 【日時】2024年9月4日(水)14:00～17:00 【場所】甲南大学岡本キャンパス5号館 524教室(オンライン併用) 【参加者】総計148名 (加盟校:16校61名、非加盟校:81名、企業5社6名) 【内容・講師等】 ■開会挨拶 大学コンソーシアムひょうご神戸FD・SD委員会委員長(甲南大学 副学長 FD委員会委員長)高 龍秀 ■第1部:基調講演 講演①「AIが急激に進化する時代に大学はどのように向き合うか？」 講師:関西学院大学 副学長/情報化推進機構 機構長/工学部情報工学課程 教授 已波 弘佳 講演②「大学業務の観点から生成AI利用を考える」 講師:九州大学IR室 学術推進専門員 森木 銀河 ■第2部:質疑応答 ■第3部:情報交換会(対面会場のみ) 2. FD・SDの共通化への取り組み (1)2024年度の大学コンソーシアムひょうご神戸FD・SD委員会主催セミナーにおいて、講師が許可する範囲内にてオンデマンド配信を行う計画を進めている。 (2)「FD・SD共通化施策案の意向調査」の実施 【期間】2024年10月31日～11月11日 【回答】25校 (自己評価) 活動指標(開催数1回以上)を実施しており、本取組は当初計画通りに進んでいる。達成目標についても、大学教育が直面している喫緊の課題を教職員のニーズをもとに取り上げ、交流する機会を創出する講演会やFD・SDの共通化への施策は、高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高めることに寄与するため、本取組は継続すべきと考える。	
達成目標に対する実績		事後アンケート(回収率:加盟校44.2%)「貴学の生成AIの活用法を考える上で有益なものでしたか」の設問に「有益であった(55.6%)」「ある程度有益であった(44.4%)」との回答(計100%)があり、加盟校が高等教育改革を推進するきっかけになったと考える。	
活動指標に対する実績		1回	
自己評価基準:対到達目標 ※		3	
自己評価基準:対継続性 ※		4	

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
500,000円	196,239円	303,761円		
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
(企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック)				

※
自己評価基準:対到達目標

4:当初計画を上回って達成
3:当初計画を達成
2:当初計画をやや下回った
1:当初計画を下回った

※
自己評価基準:対継続性

4:本プログラムは継続すべき
3:本プログラムは継続しても良い
2:本プログラムの継続には改善が必要
1:本プログラムは中止すべき

【2024年度 FD・SD委員会 事業計画(⑥取組2-2)】

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進		
達成目標	事業終了時、受講者アンケート調査において、「自学の内部質保証活動にとって有益であった」との回答が平均70%以上であることを目指す。		
課題を解決する取組概要	加盟校教職員を対象とした内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催		
活動指標	FD・SDセミナー等開催数2回以上/年		
計画(4月記載)		自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
1. 内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催 ・テーマ① 内部質保証の実質化関連 現在、多くの大学は、既に3巡目の認証評価を終え、引き続き内部質保証に取り組んでいると思われるが、その実質化は必ずしも十分とは言いきれないことも多く、内部質保証を機能させ、継続的に改善を図る必要がある。また、内部質保証のあり方に関して、大学関係者の話を聞く機会が多いが、評価機関の話を聞く機会は、自大学の受審時以外には、ほとんどない。 よって複数の評価機関から、「3巡目の評価結果を基に、評価機関の考える内部質保証の実質化のあり方と課題、優良事例」、「4巡目における内部質保証のあり方の方向性」等を講演やパネルディスカッションを通して学ぶ機会を提供する。 ※実施予定時期：2025年1月～3月 ・テーマ② データの可視化などIRスキル関連 IRにおいて、データ集約の後のデータ分析方法やIR業務全体における効率化など、加盟校ごとに状況は様々でありながらも、課題に感じられている部分が多々あることが想定される。 そこで、特にIR業務担当教職員向けに、IR業務において業務効率化に資するような実務研修を実施し、加盟校教職員の学びの機会とするとともに、加盟校教職員間での情報交換の促進を図ることとする。 ※実施予定時期：2024年6月～9月 ※上記2テーマともに、FD・SDの共通化の一端として、講演会等のオンデマンド化を講師が許可する範囲内にて行い、後日、加盟校教職員が”いつでもどこでもだれでも”参加可能な仕組みを検討する。		(活動内容) 1. 内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催 ・テーマ① 【名称】内部質保証の実質化を考える(案) 【日時】2025年2月12日(予定) 【会場】オンライン ・テーマ② 【名称】IRの基礎をダイジェストで学ぶ！ 【日時】2024年6月25日(火)14:30～16:30 【場所】Zoom 【講師】日本インスティテューショナル・リサーチ協会(JAIR)会長/東京工業大学 企画本部・情報活用IR室・業務改革推進 教授 森雅生 【参加者】総計214名(加盟校:16校43名、非加盟校:110校161名、企業:4社5名、団体:5団体5名) 【内容】高等教育の質の向上において、IRが果たす役割と重要性、IRの業務プロセスの全体像についての講演を開催。質疑応答では、IR活動において学内でグッドプラクティスを作って理解者を増やし、浸透させることの重要性などについても意見交換がなされた。 (自己評価) 活動指標であるFD・SDセミナー等開催数2回以上の日程も確定しており、本取組は計画通りに進んでいる。開催したセミナーについては、事後アンケート回答において加盟校の100%が「自学の内部質保証活動にとって有益であった」との回答があり、当初の達成目標70%以上を達成している。高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高める効果が期待されることより、本取組は継続すべきと考える。	
達成目標に対する実績		6月25日開催セミナー事後アンケート(回収率:加盟校76.7%)「貴学の内部質保証活動にとって有益なものでしたか」の設問に「有益であった(48.5%)」「ある程度有益であった(51.5%)」との回答(計100%)	
活動指標に対する実績		2回(実施予定含む)	
自己評価基準:対到達目標 ※		4	—
自己評価基準:対継続性 ※		4	—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
500,000円	196,239円	303,761円		
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
(企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック)				

※ 自己評価基準: 対到達目標	4: 当初計画を上回って達成 3: 当初計画を達成 2: 当初計画をやや下回った 1: 当初計画を下回った	※ 自己評価基準: 対継続性	4: 本プログラムは継続すべき 3: 本プログラムは継続しても良い 2: 本プログラムの継続には改善が必要 1: 本プログラムは中止すべき
--------------------	--	-------------------	--

◆加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開2024

学校名	実施日	セミナー名・内容	参加者数
関西学院大学	2024/7/6	上智大学合同 I Rワークショップ「I R業務における調査分析を一步進めるために」	43名
◆近年、多くの大学が実施している学生調査や卒業生調査について、大学のIR担当者より事例報告を行い、分析・報告といった単純な集計に留まらない、施策検討・立案への活用にもけた情報が共有された。またフロアディスカッションも行われ、参加者全体での意見交換も実施された。			
神戸松蔭女子学院大学	2024/8/1	「「神戸松蔭タータン」と「ムーミン」を活用した課題解決授業と教職協働」	85名
◆課題解決授業を実施することで、学生が現実感のある学修や充実感、社会人基礎力の向上を得、成長できることに大きな意義があるが、それだけにとどまらず社会・地域貢献が達成でき、また縦割りになりがちな大学の運営の面でも組織全体の一体感を醸成することが可能である。その事例として、神戸松蔭タータンやムーミンの取組について紹介が行われ、改めて課題解決授業について考えることができた。			
大手前大学・大手前短期大学	2024/9/2	「教育・研究のための統計法 統計の超基本とデータの解釈～血液型と性格に関するデータを用いて～」	62名
◆教育や研究活動の実施に必要な統計法について学ぶための第1弾として開催された本セミナーでは、統計の基本とデータの解釈について、実際の分析データを用いながらの解説と統計分析の手順を実践的に学ぶための事例紹介が行われた。 (大学HP) https://www.otemae.ac.jp/news/21500			
甲南大学	2024/9/11	甲南大学FDシンポジウム「経済学部2023年度ベストレクチャー事例報告」	24名
◆経済学部では、授業における工夫・ノウハウを全教員で共有し、学部全体で教育力を高めることを目的とし、授業改善アンケートの結果をもとに「経済学部ベストレクチャー」を毎年選定し、表彰している。今回のシンポジウムでは、選定された科目とその担当教員によって、授業における工夫やノウハウ、学生の成長等が報告された。			
神戸常盤大学	2024/9/14	「生涯にわたる心身の健康はこども期につくられる 一次世代人類に必要な育ちの環境を考えるー」	210名
◆昨今の保育者不足、ひいては保育者の「なり手」不足の問題を、社会問題として提起するための一連の取り組みである本講演では、京都大学大学院・明和教授より乳幼児期におけるアタッチメントの重要性や食生活が、生涯にわたる健康に大きく影響することについて科学的な解説が行われ、保育者（保護者・子育て支援施設などの保育・教育関係者）と行政が連携しながら地域での乳幼児期の育ちに携わることの重要性について考える場となった。 (大学HP) https://www.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/news/topics/_1_924106.html			
神戸国際大学	2024/9/19	公開FD研修会「学生の主体性を引き出す企業との共同によるPBL教育-福岡大学の25年間の実践-」	45名
◆1999年から「ベンチャー起業論」として企業との共同による長期インターンシップ型PBLに取り組んできた福岡大学・岡准教授と、その福岡大学のコンテストにゼミ生を参加させてきた神戸国際大学の上田教授より、学生の主体性の高め方や成長、そして地域社会への波及効果等について、事例を交えながら講演が行われた。			
神戸学院大学	2024/9/26	神戸学院大学全学教育推進機構主催FDセミナー「生徒化する大学生」	61名
◆学修者本位の大学教育への転換・実現に向けて教育改善の取組が求められている一方、その当事者である大学生が大学教育をどのように受けとめ、学んでいるのかについて、2000年代より継続的に実施している大学生調査の結果をもとに、生徒から「学生化」するために、大学教育ができることについてを検討を行った。			
兵庫大学	2024/11/6	兵庫大学2024年度 第2回教職員FD・SD研修会「高校での探究学習を踏まえた大学教育のあり方」	148名
◆新学習指導要領の改訂に伴って高校の教育が変わってきています。特に「探究授業」を受けた生徒たちの大学教育への接続はどのように考えていけばよいのかが喫緊の課題となっています。変わる時代とその足跡から、大学人として必要な知見を深める機会に、そして、今後の高大接続教育の取り組み方や大学教育の在り方を考えるための研修の機会が設けられた。			
兵庫教育大学	2024/11/26	兵庫教育大学「障害理解セミナー」	開催前
◆「自閉スペクトラム当事者の視点から支援を考える～コミュニケーションの手前にある身体的特徴への着目～」と題して、発達障害当事者で東京大学先端科学技術研究センター特任准教授の綾屋紗月先生を講師に迎えて、当事者の視点から発達障害について理解を促進するセミナーが行われた。			

大学コンソーシアムひょうご神戸 FD・SD セミナー

IR の基礎をダイジェストで学ぶ！実施報告書

主催：(一社)大学コンソーシアムひょうご神戸

共催：(一社)日本インスティテューショナル・リサーチ協会

1. 日時:2024 年 6 月 25 日(火)14:30~16:30
2. 場所:Zoom
3. 対象:大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校教職員、本テーマに関心のある方
4. 参加者:総計 214 名

大学…126 校 204 名(うち加盟校 16校 43 名・非加盟校 110 校 161 名)

(加盟校内訳)関西学院大学・関西学院短期大学(4)・甲南大学(7)・神戸大学(8)・

神戸医療未来大学(1)・神戸学院大学(1)・神戸国際大学(3)・神戸市外国語大学(4)・

神戸市看護大学(3)・神戸女学院大学(1)・神戸親和大学(1)・神戸薬科大学(3)・

園田学園女子大学(1)・兵庫大学(4)・兵庫教育大学(1)・芸術文化観光専門職大学(1)

企業…4社5名 団体…5団体5名

5.開催趣旨

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供」における、FD・SD 委員会の取組課題⑥「大学教職員の研修機会の提供と交流の促進」を推進する事業の一環として、大学教育が直面している喫緊の課題に関する情報を共有し、高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高めることを目的とする。

具体的には、大学の IR(Institutional Research)における業務効率化に資する実務研修の機会を提供することで、加盟校の「内部質保証活動」に有益なセミナーとなることを目指した。IR はデータ集約の後のデータ分析方法や IR 業務全体の状況が、加盟校によって異なり、課題が多々あると想定される。そのため、セミナーでは、“IR の基礎を全体像として捉える”ことを目標に、大学において IR が必要とされる背景から統計、学生アンケート、レポーティングといった実務の一連の流れを整理して学ぶ機会を日本インスティテューショナル・リサーチ協会(JAIR)との共催で実施した。

6.プログラム

14 時 30 分~16 時:第 1 部講演

演題「IR の基礎をダイジェストで学ぶ」

講師:日本インスティテューショナル・リサーチ協会(JAIR)会長

東京工業大学 企画本部・情報活用 IR 室・業務改革推進室

教授 森 雅生 氏

16 時 10 分~16 時 30 分:第 2 部「質疑応答」

森先生より、事前に寄せられた質問への回答、講演を受けての参加者による質疑応答を行った。



講師の森 雅生氏

7. 内容詳細

■第1部講演「IRの基礎をダイジェストで学ぶ」

冒頭に「高等教育グランドデザイン答申」において、IRとの関わりが大きい「教学マネジメント指針」において指針の説明があり、高等教育の質の向上において、IRが果たす役割や重要性について、説明があった。

全学的な教学マネジメントの確立、学生が自らの学修成果を自覚し、エビデンスと共に説明できるようにすること、DP(ディプロマポリシー)の見直しを含む教育改善に繋げるために、複数の情報を組み合わせて多角的に学修成果・教育成果を把握・可視化すること、AP(アドミッションポリシー)に基づく入試選抜の実施についての言及があった。



講師より詳細な資料提供も行われた

高等教育グランドデザイン答申

1. リカレント教育の充実
2. 留学生交流の推進
3. 学位等の国際的通用性の確保
4. 高等教育機関の国際展開
5. 学位プログラムを中心とした大学制度
6. 学修の質の向上（教育課程、指導方法の改善）
7. 大学間の連携による教育プログラムの多様化
8. 情報通信技術（ICT）を活用した教育の促進
9. 全学的な**教学マネジメント**の確立
10. 学修成果の可視化と情報公表の促進
11. 教育の質保証システムの確立

高等教育グランドデザイン答申を
通して IR の役割を説明

次に、「IR 概要～その目的と歴史」として、統計的手法を用いた入学者数の分析、IRの業務プロセスの全体像などについて理解が促された。IRに必要な「統計の知識」も紹介され、統計の基本概念（分布、記述統計、推定統計、ヒストグラム、平均・標準偏差、四分位数、正規分布）、正規分布と標準正規分布の特徴、変数変換、標準正規分布表の利用方法が具体例と共に説明され、実務に必要なスキルが整理された。

さらに、「教育と研究の指標」と題して、コスト分析の観点から、教員の人件費、学生からの学費収入を考慮して、講義の経済的妥当性、教員の1時間あたりの人件費や学生の1単位あたりの支払

額などを指標とする考え方なども一例としてあげられた。

IRの活用法として、データ分析のツール「Python」などのプログラミング言語を用いたデータ分析、具体的なツール(Pandas、Numpy、Scikit-learn、Excel)の利用方法や、課題解決のための Research Question(RQ)の設定の重要性にも言及。データに基づいて測定・判断できる項目を特定し、単純な記述統計で経年変化を示すこと効果的であることなど、活用方法も示された。IRの全体像を把握しながら日々の実務に活かせる基本的な実務についても網羅的に説明された研修であった。

■第2部「質疑応答」

第2部の質疑応答では、まず参加者からの事前質問への回答があった。次に、森先生の講演を受けて、参加者から各校の実情をもとに具体的な質問が寄せられた。

例えば、感想として、「達成度については、『できるようになったと思うか』という学生にとっては答えにくい質問を工夫して、DP達成に向けてとった行動を尋ねるとするのは「なるほど」と感じた。一方で、学生自身が『できるようになった』という自覚があるかないかも同時に重要ではないかとも思った」などのコメントがあった。

質問

質問1

教学IRとの連関を想定した学生アンケートの質問事項作成について、参考になる実施事例やアイデア・ヒントをいただけますと幸いです。

回答

主観を問うのではなく、行動を問う。

事前質問にも丁寧な回答があった

32

質問

質問2

IR業務を行う上では、BIツールは必須なの
でしょうか？

回答

課題の分析結果を共有する際に、必要であ
れば導入すれば良い。BI=IRではない。

33

IRとツールの関係性も関心が高い

質疑応答は、「学生調査で『行動』を問う項目として、DP 達成度を測ること以外に適用できるものはありますか？」「教学 IR とともに、経営 IR についても力を入れたいが情報を一元的に取り扱えないという課題があり、克服のヒントを知りたい」「小規模大学で IR 担当がいらない。新たに採用するか、業務委託するか、学内職員を育てるかについて、アドバイスがあれば」など、複数の質問が寄せられた。

講師からは、IR 活動においても、学内でグッドプラクティスを作って理解者を増やして浸透させることが大切であること、また、東京工業大学での事例や複数大学が学生調査分析を軸

に活動する「大学 IR コンソーシアム」や「日本インスティテューショナル・リサーチ協会」など大学連携での取り組みの紹介、参考書籍等の紹介もあった。*文中画像イメージは、講師の当日投影資料より抜粋

8. 参加者の感想と考察

参加者に対する事後アンケート(回答数 147、回収率 68.7%)は、「本セミナーの満足度」について、よかった(68%)、まあまあよかった(30.6%)、あまりよくなかった(0.7%)、よくなかった(0.7%)であった。「よかった」と「まあまあよかった」の回答計で 98.6%が満足している結果となった。

また、事後アンケートのうち加盟校教職員(回答数33、回収率 76.7%)において、「自学の内部質保証活動にとって有益であったか」の設問について、「有益であった(48.5%)」「ある程度有益であった(51.5%)」の回答計で 100%が「自学の内部質保証活動にとって有益であった」と考えている回答結果となり、本セミナーの目標を達することができたことが窺える。

参加者の声では、「IR の目的・歴史など、いちから学べたことがよかった。高等教育グランドデザイン全体像から教学マネジメントに落とし込む形でご説明いただいたため、非常に分かりやすかった」、「具体的なデータの分析方法等をわかりやすく説明いただいたことで、組織的な知識が必要であることがわかった」、「高等教育学の専門家がいらない本学にとって、示唆に富む内容であった」といった声が挙がっていた、また、「IR は難しい技術が必要のように思われるが、少し身近に感じ、チャレンジしてみようと思えた」など、本研修をきっかけに、高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高める効果が生まれていた。

(以下、参加者アンケート抜粋)

Q1.本セミナーの満足度を教えてください

- ・IR の基本知識、分析の基礎、統計学の手法などのわかりやすい説明を受けられた。
- ・IR の目的、歴史、体制構築などの IR の概要・全体像を把握できた。
- ・IR の実際の事例や日常業務レベルの具体的な活動をイメージできた。

Q2.本セミナーは、貴学の内部質保証活動にとって有益なものでしたか

- ・学内者と情報共有や連携、あらたな仕組みを導入するための参考になった。
- ・IR と内部質保証活動を大学全体で取り組む体制について理解が深められた。
- ・実務レベルで活用できる事柄や参考にできる事例について説明があった。

以上

2024 年度 大学コンソーシアムひょうご神戸 FD・SD セミナー
「大学における生成 AI 活用について考える」報告書

主催：一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

共催:甲南大学FD委員会

1. 日時:2024 年 9 月 4 日(水)14:00~17:00
2. 場所:甲南大学 岡本キャンパス 5 号館 524 教室
3. 対象:大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校教職員、本テーマに関心のある方
4. 参加者:総計 148 名(会場 34 名、オンライン 114 名)

大学·短期大学…75校 142名(加盟校 16校 61名·非加盟校 59校 81名)

(加盟校内訳)16校 61名…芦屋大学(3)・大手前大学(1)・関西国際大学(1)・関西学院大学(6)・甲南大学(30)・

神戸大学(3)・神戸学院大学(1)・神戸国際大学(1)・神戸市外国語大学(3)・神戸女学院大学(1)・神戸親和大学(1)・

神戸常盤大学(3)・神戸薬科大学(1)・兵庫大学(4)・兵庫教育大学(1)・芸術文化観光専門職大学(1)

企業…5社6名

5. 開催趣旨

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期(2022～2026)における取組課題「県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供」を推進すべく、「大学教職員の研修機会の提供と交流の促進」に取り組む FD・SD セミナー「大学における生成 AI 活用について考える」を開催した。

昨今、ChatGPT に代表される高度な生成 AI の利用者が急増しており、大学においても、教育や業務での活用可能性とリスクなど、正負両面の影響が存在し、対応が求められている。生成 AI は日々進化を続け、情報をアップデートする必要もあり、それらの対応の難しさも推測される。そこで、生成 AI の現状を理解するとともに、教育活動と大学業務双方の観点から生成 AI の活用可能性と対応を考える機会を設けた。

[illegible]

当日のチラシ

6. プログラム

14:00～14:05 開会挨拶:大学コンソーシアムひょうご神戸 FD・SD 委員会委員長

甲南大学 副学長 FD委員会委員長 高 龍秀 先生

14:05～15:00 第1部:基調講演①「AIが急激に進化する時代に大学はどのように向き合うか？」

講師：関西学院大学 副学長/情報化推進機構 機構長/

工学部情報工学課程 教授 巳波 弘佳 先生

15:00~15:05 休 憩

15:05～15:55 第1部:基調講演②「大学業務の観点から生成AI利用を考える」

講師:九州大学 IR 室 学術推進専門員 森木 銀河先生

15:55~16:05 休 憩

16:05~16:30 第2部:質疑応答

16:30~17:00 第3部:情報交換会(対面会場のみ)

7. 内容詳細

■第1部:基調講演

まず、大学における生成 AI 活用について、関西学院大学の巳波先生より「AI が急激に進化する時代に大学はどのように向き合うか」と題して講演があった。生成 AI の登場による教育システムの危機、教育者の役割と大学の存在意義が問われている現状が提起された。さらに、具体的な生成 AI を活用した教育法と課題の例示が行われ、人材育成の観点で大学が提供する価値と大学の存在意義について、一人ひとりの大学人が向き合う重要性が熱く語られた。

続いて、九州大学の森木先生より「大学業務の観点から生成 AI 利用を考える」と題して、生成 AI の基礎知識の理解から、大学業務に活用するための具体的な方策に関する講義があった。実務での具体的な生成 AI の活用方法・プロンプト、ガイドラインの策定事例など、大学職員がリテラシーを高める視点を初心者でも理解しやすいよう、時に実践も交えてわかりやすく説明いただいた。



第1部の講師・巳波弘佳先生



第1部の講師・森木銀河先生

■第2部:質疑応答

第1部の講演者である巳波先生と森木先生、会場とオンライン参加者間で、双方向で文字をつかったコミュニケーションができる Web サービス「slido」を活用して、巳波先生のファシリテーションで躍動感のある質疑応答が行われた。参加者からは、自学の実情を踏まえた具体的な質問や日々の業務上の疑問点に関する率直な質問があり、講師陣から一つ一つ丁寧な回答がなされた。



第2部の質疑応答

■第3部:情報交換会

巳波先生、森木先生、会場参加者で情報交換会を行った。座談会のような和やかな雰囲気の中、第2部の質疑応答をさらに深める質問や、参加者が日ごろから抱いている疑問等について、率直な意見交換が行われた。



第3部の情報交換会

8. 参加者の感想と考察

参加者への事後アンケート(回答数53、回収率35.8%)の回答は、「本セミナーの満足度」について、よかった(69.8%)、まあまあよかった(24.5%)、あまりよくなかった(3.8%)、よくなかった(1.9%)であった。「よかった」と「まあまあよかった」の回答計で 94.3%が満足している結果となった。また、事後アンケートのうち加盟校教職員(回答数 27、回収率 44.2%)において、「本セミナーは、貴学の生成 AI の活用法を考える上で有益なものでしたか」の設問にて、「有益であった(55.6%)」「ある程度有益であった(44.4%)」の回答計100%が「有益である」との結果となり、本セミナーは加盟校が高等教育改革を推進するきっかけとして、一定の成果があったと考えられる。

具体的なコメントとしては、「生成 AI を活用しながら、どのように学生を指導するかをイメージできた」「大学でどのような活用の可能性があるのか、興味深い内容が盛り込まれ、とても参考になった。個人情報保護など、気になるところも説明頂けたのがとてもよかった」など、大学での本務に役立つ内容であった。また、

「生成 AI に拒絶反応を持っていたが、少し解消された」「生成 AI を使いこなすにあたり、『質問力』がいかに重要であるかを認識できた」など、具体的な行動につながる意見がよせられた。「業務効率を向上させるための資料(情報)としてかなり有益」と提供資料に価値を感じる参加者も少なくなかった。

(以下、参加者アンケート抜粋)

Q1. 全体の内容は、いかがでしたか。

- ・生成 AI のメリットとデメリットがわかりやすく解説されるとともに、人がどのように使いこなすかというマインドまで聞くことができた。教育機関への導入や学生と教員、双方の視点から生成 AI を知ることができてよかった。
- ・AI の活用と大学の存在意義について、危機感をもちながら今後どのように活用していけばいいのかを考えるヒントをいただきました。

Q2. 貴学の生成 AI の活用法を考える上で有益なものでしたか。

- ・AI を何に活用できるか。全て AI ではなく、業務を細分化して一部に適用する等は参考になりました。
- ・知識を深めることはできた。業務へ導入するためには、自身の生成 AI の活用力を上げなければならないと感じた。

Q3. 第1部 基調講演について:関西学院大学 巳波 弘佳先生

- ・喝を入れていただいたような気持ちになりました。先生の熱を感じられる講演でした。なぜ今までの教育から脱却しなければならないのかをしっかりと説明してくださって、自分の中の「教育が変わる」というのは何なのかというモヤモヤが少し晴れた気がします。本学の教職員にも共有したい内容でした。
- ・これからの大学教育の在り方について示唆を与えていただきました。求められる人材をどう育てていくのか、課題としてとらえています。
- ・生成 AI といった新しい技術に対する拒絶反応が解消された。授業での活用方法を知る事が出来た。

第1部 基調講演について:九州大学 森木 銀河先生

- ・生成 AI を使った実践の画面や文章の作成過程を見せていただけたため、実際に利用するさいのイメージがわきやすく、講義の内容が入ってきやすかった。
- ・シンプルでわかりやすい資料と、同じ職員目線でのお話が聞けたのがよかった。また、終盤の「失敗体験は成功体験より貴重、ほとんどの大学は失敗すらできていない」というコメントはグッときました。
- ・職員のリテラシーとしての話は初めて聞いたからよかった。

Q4. 第2部 質疑応答について

- ・他大学の問題点が共有できて有意義でした。
- ・一つの正解があると思わず、学生と共に学び考えてゆきます。

Q5. 第3部 情報交換会(会場のみ)について

- ・親しみやすい雰囲気で行われました。
- ・他部門の方々と、それぞれの現場での課題を共有できました。

以上

兵庫県下の大学間連携組織「大学コンソーシアムひょうご神戸」(兵庫県下大学等36校加盟)のFD・SD委員会では、教職員の資質を向上させることを目的とした研修の機会を継続的に提供している。

2022年度より内部質保証に関するセミナーを継続的に開催しており、2024年度は認証評価機関担当者による講演とパネルディスカッション、及び、参加者と評価機関との意見交換を通じて、内部質保証のあり方に関して知見を深めたい。

記

1. 趣旨

現在、多くの大学は、既に内部質保証を重点評価事項とする3巡目の機関別認証評価をクリアしており、引き続き内部質保証に取り組んでいる。内部質保証はそれを回すことが目的ではなく、教育の充実を図り、学生の学習成果を向上させるための手段であるが、その実質化は必ずしも十分とは言えない。このため、内部質保証の取組自体についても、その実質化を推進するため、継続的に自己点検・評価と改善(内部質保証)を図る必要がある。また、大学にとっても、自らの取組の客観視を推進するために、異なった特徴を持つ複数の評価機関から話を聞くことは、重要な意義がある。

以上から、4つの評価機関から、①3巡目の評価結果を基に、評価機関の考える内部質保証の「内部質保証の実質化」のあり方と課題、優良事例、②4巡目における「内部質保証」のあり方の方向性、に関する話を伺い、自大学の今後の内部質保証の取組の自己点検・評価と改善の参考とするセミナーを開催する。

2. 企画内容

以下の内容に関する①②に関する講演と、評価の同等性に関するパネルディスカッション、及び、参加者と評価機関の意見交換

①3巡目の評価結果を基に、評価機関の考える「内部質保証の実質化」のあり方と課題、優良事例

②4巡目における「内部質保証」のあり方の方向性

3. 開催日時

2025年2月12日(オンライン開催) 13:00~15:30(150分)

4. 講師

大学コンソーシアムひょうご神戸の加盟校が多く受審する以下の認証評価機関のご担当者

- ・独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 研究開発部教授 鳶田 敏行 氏
- ・公益財団法人 大学基準協会 常務理事・事務局長 工藤 潤 氏
- ・公益財団法人 日本高等教育評価機構 常務理事・事務局長 伊藤 敏弘 氏
- ・一般財団法人 大学教育質保証・評価センター 事務局長 中田 晃 氏
- (ファシリテーター)神戸大学 戦略企画室 准教授 高田 英一 氏

5. 参加者

- ・大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校教職員、本テーマに関心がある人(加盟校外も参加可)
- ・参加申し込み時に、意見交換を希望する評価機関、全体・個別の評価機関への質問を登録していただく

6. 当日のスケジュール(全体 150 分、内休憩 20 分・意見交換 30 分)

(1)開会の挨拶(3 分)

(2)各評価機関からの御講演(60 分)

- ・①②とともに、各評価機関が 4 巡目に求める「内部質保証の実質化」の特徴・背景に関する御講演
- ①3 巡目の評価結果を基に、評価機関の考える「内部質保証の実質化」のあり方と課題、優良事例
- ②4 巡目における「内部質保証」のあり方の方向性
- ・4 評価機関×15 分

[休憩 5 分]

(3)パネルディスカッション(25 分、質疑を含む)

①趣旨・目的

- ・現在、異なる特質を持つ複数の評価機関が存在しているが、評価の「多元性」と「同等性」のバランスは、重要な課題である。
- ・評価の「多元性」の観点は、(2)ご講演、及び、(4)各評価機関と参加者との意見交換で、対応する。他方、パネルディスカッションでは、4 評価機関が揃う機会を活かして、「同等性」に関する意見交換を行う。このため、ファシリテーター(高田英一(神戸大学・戦略企画室))から、趣旨説明の上で、②の話題提供を行う。

・パネルディスカッションの趣旨説明

- ・前半の講演では各評価機関の考える「内部質保証の実質化」の特徴・背景に関する御講演をいただきました。他方で、中教審では一定の「同等性」の確保も問題提起されています。このため、4 評価機関が揃うパネルディスカッションでは、「内部質保証の実質化」に関する「同等性」のあり方について意見交換を行いたいと思います。

②話題提供

- 1)「内部質保証の実質化」の「同等性」を探る観点から、各評価機関として「内部質保証の実質化」のために最低限必要な要素とその求める水準、についてお考えをお聞かせください(→ 回答を踏まえて、共通する要素を抽出し、再度、評価機関の意見を伺う)[10 分]
- 2)残念ながら、社会は元より大学やその構成員においても、認証評価の意義や評価結果に対する認識は高いとはいえない状況と思われます。評価機関として、社会から信頼されると同時に、大学の構成員にも届くような認証評価をどのように実現するか、についてどうお考えですか？[5 分]
- 3)内部質保証の実質化が政策的に求められていますが、他方で、大学の負担の増加ともなります。評価機関として、大学の負担の軽減を図るために、何か工夫を考えられていますか？[5 分]
- 4)4 巡目までにおいて、認証評価機関は設置形態別に分かれつつあるようにも見えますが、このことについてどうお考えですか？[5 分]

[休憩 15 分]

- ・全ての参加者を評価機関ごとの4つのブレイクアウトルームに分ける(参加大学は、受審を予定する大学と想定)
- ・参加者には、作業の円滑化のために、参加者の名前に意見交換を希望する評価機関を示す番号・名称を記載していただく

(4)各評価機関と参加者との意見交換(30 分)

- ・テーマは、第 4 期における内部質保証の実質化のあり方(参加大学の主な関心事項と想定)に関する意見交換
- ・各ブレイクアウトルームには、当該評価機関での受審予定(経験)のある配置するファシリテーターを配置し、ディスカッションを進行
- ・ファシリテーター
 - ・大学改革支援・学位授与機構のブレイクアウトルーム:高田英一(神戸大学)
 - ・大学基準協会のブレイクアウトルーム:受審経験のある大学関係者(甲南大学)
 - ・日本高等教育評価機構のブレイクアウトルーム:受審経験のある大学関係者(募集)
 - ・大学教育質保証・評価センターのブレイクアウトルーム:受審経験のある大学関係者(募集)

(5)意見交換の全体共有(10 分)

- ・4つのブレイクアウトルームでの意見交換の概要報告×3 分程度
- ・ファシリテーターより報告

(6)閉会の挨拶(2 分)

- ・挨拶には、以下の趣旨を盛り込む
 - ・内部質保証は、教育の充実を図り、学生の学習成果を向上させていくための手段であり、それを認証評価に備えてうまく回すことが目的ではありません。自らの大学の理念、目的、教育目標等を踏まえ、大学独自の内部質保証のストーリーを作って、その実質化を進めていただきたいと思います。

7. 開催までの作業スケジュール

- 9 月中 大学コンソーシアムひょうご神戸事務局で企画案の確定【完了】
- 10 月～11 月前半 4評価機関への企画案の送付・意見照会、及び、4 評価機関との打ち合わせ【完了】
- 11 月中 企画の確定
- 11 月下旬 広報の開始(JAIR 等の従来のルート+その他のルート検討)
- 12 月初旬(開催 2 カ月前) 評価機関への講演資料の依頼
- 2 月第 1 週(開催 1 週間前) 事務局へ講演資料提出、事務局・ファシリテーターは事前把握
- 2 月 12 日 開催

本件に関する問い合わせ先:

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸事務局 担当:中水かおる

電話:078(271)0233. E-mail k.nakamizu@consortium-hyogo.jp

以上

大学コンソーシアムひょうご神戸 FD・SD 委員会 FD・SD 共通化施策案の意向調査について

大学コンソーシアムひょうご神戸 FD・SD 委員会委員長校 甲南大学

兵庫県下の大学間連携組織である大学コンソーシアムひょうご神戸において、FD・SD 委員会では、従来から加盟校教職員の資質を向上させることを目的として、主にセミナーの開催や加盟校間の FD・SD 相互公開を進めてきた。2023 年 10 月の企画運営委員会では、新たに必要性として検討すべきこととして「FD・SD の共通化」が挙げられた。また、当コンソーシアムにおいて 2023 年度に実施した加盟校教職員へのアンケート調査では、「学生同士の交流」「学生の学びの幅を広げる」ことは一定できているが、「加盟校が実感値としてのメリットを感じる」ことが必要であるとの結論に至り、当コンソーシアムの強みである「大学間の交流」「加盟大学数」等を活かした、若手職員に対しての研修、ナレッジの共有や機会提供などを新たに検討することとなった。

については、FD・SD 委員会の 2024 年度事業計画において、「FD・SD の共通化」の取り組み方針を固めることとなっており、以下の 3 案について加盟校のみなさまのご意向をお伺いしたく、ご協力の程よろしく願いいたします。

記

【案 1 加盟校間の相互協力、交流を強める FD・SD 活動】

◆ねらい：大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校内にて、各加盟校が課題と感じているテーマを持ち寄り、その他の加盟校がそれぞれの状況の共有や意見交換等を行う機会を提供する。

◆例：年 1 回など、各大学が課題と感じているテーマ（内部質保証体制や生成 AI に関する対応方針など）を事前に集約し、加盟校が各テーマに関する回答書を作成する形で、当日は記載内容の共有や意見交換会を行う。

※加盟校が多いため、テーマの選定や意見交換方法は別途要検討

【案 2 すでに大学内で実施している（したいけどできていない）研修等を共同で行う FD・SD 活動】

◆ねらい：多くの大学は新任職員等の採用人数は少ない中で、必要な研修を取捨選択していると思われるため、各大学に共通している研修に関して、共同で実施することによる効率化やコストメリットが見込まれる。

◆例：年 1 回、若手教職員等を対象に特定のテーマに関する研修を行う。

※可能性として、学校会計や個人情報管理等がテーマとしてあるが、各大学間での個別事情等による多少の差異があると思われる点が懸念

【案 3 兵庫県、神戸市の実情に関する理解を深める FD・SD 活動】

◆ねらい：大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校は、同じ兵庫県という自治体に属する教育機関であり、兵庫県出身ではない方も多くいる若手職員などが兵庫県、神戸市のおかれた状況を共通理解として、各教育機関での業務や大学間の連携等を図るための土台作りの機会を提供する。

◆例：年 1 回若手教職員向けに、兵庫県教育委員会等による兵庫県のおかれた教育分野に関する講演、出席者同士による兵庫県下の大学が取るべき施策等についてのディスカッションなど

以上

【参考】各案の比較

	案 1	案 2	案 3
目的「加盟校が実感値としての メリットを感じる」の達成度	○	○	△
強み「大学間の交流」「加盟大学 数」の活用	○	△	○
加盟校の負担度合い	△	○	○

【回答】それぞれの案について、以下フォームより、ご回答ください。

大学コンソーシアムひょうご神戸「FD・SD 共通化施策案の意向調査」について

<https://ws.formzu.net/dist/S56819722/>

回答記入欄：

- 1、希望について（第1希望・第2希望・第3希望）
- 2、各案に対するコメント（実施を想定した場合、興味・関心のある点、懸念点、情報提供など）

大学コンソーシアムひょうご神戸 FD・SD 委員会 FD・SD 共通化施策案の意向調査結果

大学コンソーシアムひょうご神戸 FD・SD 委員会委員長校 甲南大学

◆調査内容

2023 年 10 月の大学コンソーシアムひょうご神戸企画運営委員会で、新たに必要性として検討すべきこととして「FD・SD の共通化」が挙げられたことを受け、当コンソーシアムの強みである「大学間の交流」「加盟大学数」等を活かした「加盟校が実感値としてのメリットを感じる」内容を検討することとなった。2024 年度中に取り組み方針を固めるべく、具体的に 3 案について加盟校の希望を調査した。（各案詳細は 10/31 のコンソからのメールの添付資料をご確認ください。）

【案 1 加盟校間の相互協力、交流を強める FD・SD 活動】

【案 2 すでに大学内で実施している（したいけどできていない）研修等を共同で行う FD・SD 活動】

【案 3 兵庫県、神戸市の実情に関する理解を深める FD・SD 活動】

◆調査結果

回答数の内訳は以下の通り（調査期間：2024 年 10 月 31 日～11 月 11 日）

FD・SD 委員会（全 25 校）の委員 22 名より回答があった。

※大学・短期大学の委員兼任者 4 名は 1 回答、1 校 2 委員より回答されたものはそのまま集計

	案 1	案 2	案 3
第 1 希望	8	10	3
第 2 希望	10	8	4
第 3 希望	4	4	15

◆各案に対するご意見

【案 1 加盟校間の相互協力、交流を強める FD・SD 活動】

- ① もちろん継続的に取り組むべき事柄と思いますが、コンソーシアムの新たな展開となり得るかを考慮したとき、第 3 希望とさせていただきました。例示にあるとおり課題設定について仕組を構築することが必要と考えます。テーマが常に業界のトレンドに左右されたり、事例の蓄積が多い一定の教育機関の意見が大きくなる議論も避けたく思います。
- ② 加盟校が多いため、テーマの選定や意見交換方法に工夫が必要なことはご指摘のとおりと思います
- ③ 加盟校数の多さから、「共通する興味関心」が複数あってもよい。年数回実施？
- ④ 内部質保証体制や教育効果の可視化などについての意見交換ができると良いと思います。
- ⑤ 例文と同じく各大学の課題を調査し課題を共有し、テーマを決め研修会を開く。例えば、新しい概念、「PD の主旨や取り組み例（FD の高度化、教職共同、募集戦略）」など現行の大学では、まだ総合的な取り組みがない、もしくはイメージしにくいテーマをあげ、研修会を開催する。事例がない場合、全国コンソ連合的なところで紹介をもらう。事例を持っている場合は講師派遣など協力を促し、WG 形式で行う。事例がない場合、文科省、審議員などを招きスクール形式で研修会を開催する。
- ⑥ コンソの強みである「大学間の交流」「加盟大学数」を活かしたナレッジの共有による相互協力ができればそれなりの価値があると考えています。また、その後の加盟校間の定期的な情報交換につながる可能性もあるかもしれません。

- ⑦ 本学は小規模な大学のため、現在話題になっているトピックについてFDがなかなか開催できないことが多いもので、共有できると非常に有意義と考えています。

【案2 すでに大学内で実施している（したいけどできていない）研修等を共同で行うFD・SD活動】

- ① 事例例示の記載にもあるように、各法人／教育機関において個別事情があるのはそのとおりだと思いますが、事例研究として他者の事情や独自の手法も加えたケースを学ぶ場であつてもよいと考えます。（若干、案1の要素も入ってくるかもしれませんが）個別大学では見えてこなかった機関運営のヒントが見つかると思います。
- ② 大学間の個別事情等による多少の差異があると思われる。
- ③ 大学で実施している地域連携活動の紹介、実施する場合の教職共同での取り組みなどについての意見交換ができると、FDやSDに役立つと思います。
- ④ 新任研修会は、建学の精神や教育方針が中心なので、各大学それぞれ異なり、今のところ共同運営について効果が見込めない。また、職員の場合、大学の所属団体（私大協、日短協他）などで会計や法的な研修会があるので、その分野は、まかなえていると考える。
- ⑤ 新任教職員等をターゲットとした一般的な研修については、他の機関や団体によってすでに運営されているところも多く、そこの差別化要素がなければあまりニーズがないかもしれません。また、対面であるところと多くの加盟校の予定を調整するのが難しく、オンデマンドにすると大学間の交流の要素が薄れてしまうことが考えられる。

【案3 兵庫県、神戸市の実情に関する理解を深めるFD・SD活動】

- ① 地域コンソーシアムとして意義のある取組であるとの学内意見がありました。地元の自治体と連携した取組を考慮したとき、個別の教育機関よりも複数が共同したコンソーシアムのほうが馴染むとも思えます。まずは身近な問題からスモールスタートでよいと考えますが、兵庫県は北から南に広く、各地域の協力が得られれば、将来的には地域研究のフィールドとしても新たな展開が期待できるかもしれません。
- ② 県市の施策と大学教育とのすり合わせは重要。ただしどれくらい関心と呼ぶかは不明。
- ③ 例にありますように、兵庫県の事業についての交流の機会があると、より地域が身近なものになると思います。
- ④ 兵庫県、神戸市の実情に関する理解を深めるFD・SD活動については、今のところイメージしにくいいため効果が見込めない。
- ⑤ 他の機関や団体には実現が難しいと思われ、「大学コンソーシアムひょうご神戸」が行う価値（差別化など）が一番高いように感じました。若手教職員向けでなくても、官と学のつながりを持ちつつ、大学間の交流も図れる可能性がある点が良いと感じました。

以上

「加盟校が実施する FD・SD セミナーの公開」情報共有の仕組み

2024 年度の大学コンソーシアムひょうご神戸（以下「コンソ」という。）FD・SD 委員会事業「加盟校が実施する FD・SD セミナーの公開」については、コンソ加盟校の協力を得て、以下のとおり実施します。

1. 「加盟校が実施する FD・SD セミナー」の公開について

本事業における FD・SD セミナーの「公開」とは、加盟校が実施する FD・SD セミナーへの参加枠を「自学以外」の「コンソ加盟校教職員に開放」することをいいます。

2. 「加盟校が実施する FD・SD セミナー」の情報収集及び情報提供について

加盟校が実施する FD・SD セミナーのうち、公開が可能である FD・SD セミナーについて、下記のとおり情報の提供を依頼します。

（１）情報収集及び情報提供の担当窓口について

本委員会は、コンソ事務局の所有する「FD・SD 委員会名簿」に記載の担当部署又は「コンソ担当者一覧」を通じて、上記のセミナーに関する情報の収集・提供を行います。

（２）加盟校からの情報提供について

- ① ご協力いただける加盟校は上記のセミナーに関する情報をコンソ HP 上の「**コンソ加盟校 公開 FD・SD セミナー情報提供フォーム**」により随時ご提供ください。
（セミナーの案内チラシ・実施要項・申込用紙等を併せてご提供ください。）
- ② なお、セミナー実施後はコンソ HP 上の「**コンソ加盟校 公開 FD・SD セミナー実施報告フォーム**」により「**最終参加人数**」をご報告ください。併せて、上記セミナーに係る配付資料、報告書及びアンケート結果等を可能な範囲で添付にてご提供ください。

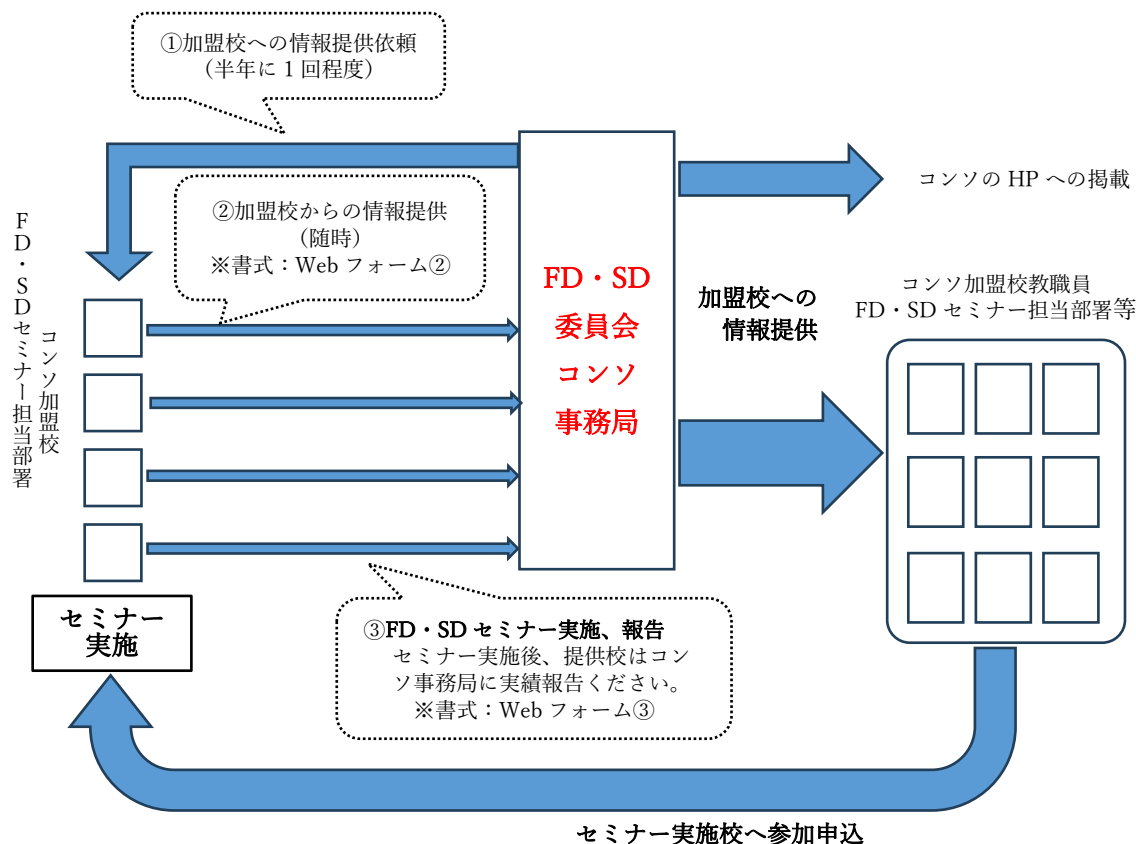
（３）加盟校への情報提供について

本委員会は、上記（２）により提供いただいた情報を取りまとめ、以下のとおり加盟校へ情報を随時提供します。

- ① 公開 FD・SD セミナー
提供いただいた「公開 FD・SD セミナー」をコンソのホームページ上に掲載するとともに、上記（１）の担当窓口等、加盟校教職員へメールにて送付します。
※ 各校においては、適宜の方法により学内に周知いただくとともに、セミナー実施校が示す方法により直接、参加を申し込んでください。
- ② 上記①のセミナーに係る配付資料、報告書及びアンケート結果等
上記（１）の担当窓口へ適宜の方法により送付します。
※ 学内又は加盟校の FD・SD 担当者間での情報交換等にご活用ください。

3. その他

◎加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開イメージ図



① 「加盟校への情報提供依頼 (半年に1回程度)」

② 「コンソ加盟校 公開FD・SDセミナー情報提供フォーム」 URL
<https://ws.formzu.net/dist/S502194952/>

* 情報提供は、上記フォームにて直接入力ください。

③ 「コンソ加盟校 公開FD・SDセミナー実施報告フォーム」 URL
<https://ws.formzu.net/dist/S78326574/>

* セミナー実施後は、上記フォームにて直接ご報告ください。

4. 問い合わせ先

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸事務局

FD・SD 委員会担当: 中水かおる

Eメール info@consortium-hyogo.jp

TEL: 078-271-0233 / FAX: 078-271-0244